

CHAPTER

4

神奈川・横浜の 魅力を世界へ

大会開催期間中、ファンゾーンは国内外からの多くの観戦客で賑わい、街は大会の装飾でラグビー一色に彩られ、特別な祝祭感に包まれた。県内の観光地にも外国人旅行者が訪れ、海外メディアも取材に来訪し、世界に神奈川・横浜の魅力が発信された。



ファンゾーン

概要

ファンゾーンは、大会組織委員会との「ラグビーワールドカップ2019開催基本契約」により開催都市に設置が義務付けられた公式イベントスペースのことで、大型スクリーンでのパブリックビューイングで、気軽に飲食しながら試合が楽しめるほか、ラグビー体験など様々なコンテンツを無料で楽しむことができるものである。

神奈川県・横浜市は、国内外から訪れる来場者にラグビーワールドカップ2019™の興奮と感動を共有していただくとともに、神奈川・横浜をPRする絶好の機会として、『ラグビーワールドカップ2019™ ファンゾーン in 神奈川・横浜』の開催に取り組んだ。

神奈川・横浜らしさを感じる海と芝生のロケーションの「臨港パーク（横浜市西区みなとみらい1）」を会場とし、9月20日の大会開幕から11月2日の決勝までのうち、15日間の開催を予定し、約15万人の来場者数を目標とした。

また、来場者の利便性向上のため、桜木町駅からシャトルバスを運行した。

コンセプト

神奈川・横浜は、開港以来、積極的に海外文化を受け入れ発展してきた歴史を持つ。日本・神奈川・横浜の文化を体感できるステージイベントや、美味しい飲食物の提供（ケータリング）などを実施し、ラグビーワールドカップの興奮と、ファンゾーンという新たなスポーツを楽しむ文化を外国人と日本人が共に体感する非日常的な空間を創出するため、コンセプトを「日本・神奈川・横浜と海外が出会う場所」とした。

スケジュール

- 2017年 7月 大会組織委員会
ファンゾーンガイドライン
第1版提示
- 2017年 10月 ファンゾーン運営計画書 Ver.1
(候補地選定など)
作成業務委託契約締結
- 2018年 4月 臨港パークへの設置 決定
(大会組織委員会 承認)
- 2018年 7月 ファンゾーン運営計画書 Ver.2
及びFinal (開催計画、実施概要)
作成業務委託契約締結
- 2018年 11月 臨港パークでテストイベント実施
- 2019年 5月 ファンゾーン運営委託事業者決定

実績

ファンゾーン開催日は国内外からの多くの来場者で賑わった。台風の影響で10月12日、13日の2日間が開催中止となったが、開催した13日間の総来場者数は、目標を超える15万3,700人となった。

さらに、1日の平均来場者数は約12,000人と、12開催都市16ファンゾーンで最多となった。

日本戦や決勝トーナメントの試合は大変人気で日本戦3試合と決勝開催日は入場制限を行った。

また、日本人と外国人が、ビールを片手に、共に記念撮影や、会話を楽しむ姿が見られ、ファンゾーンはラグビーを通して様々な国の人が出会い、交流する場となった。

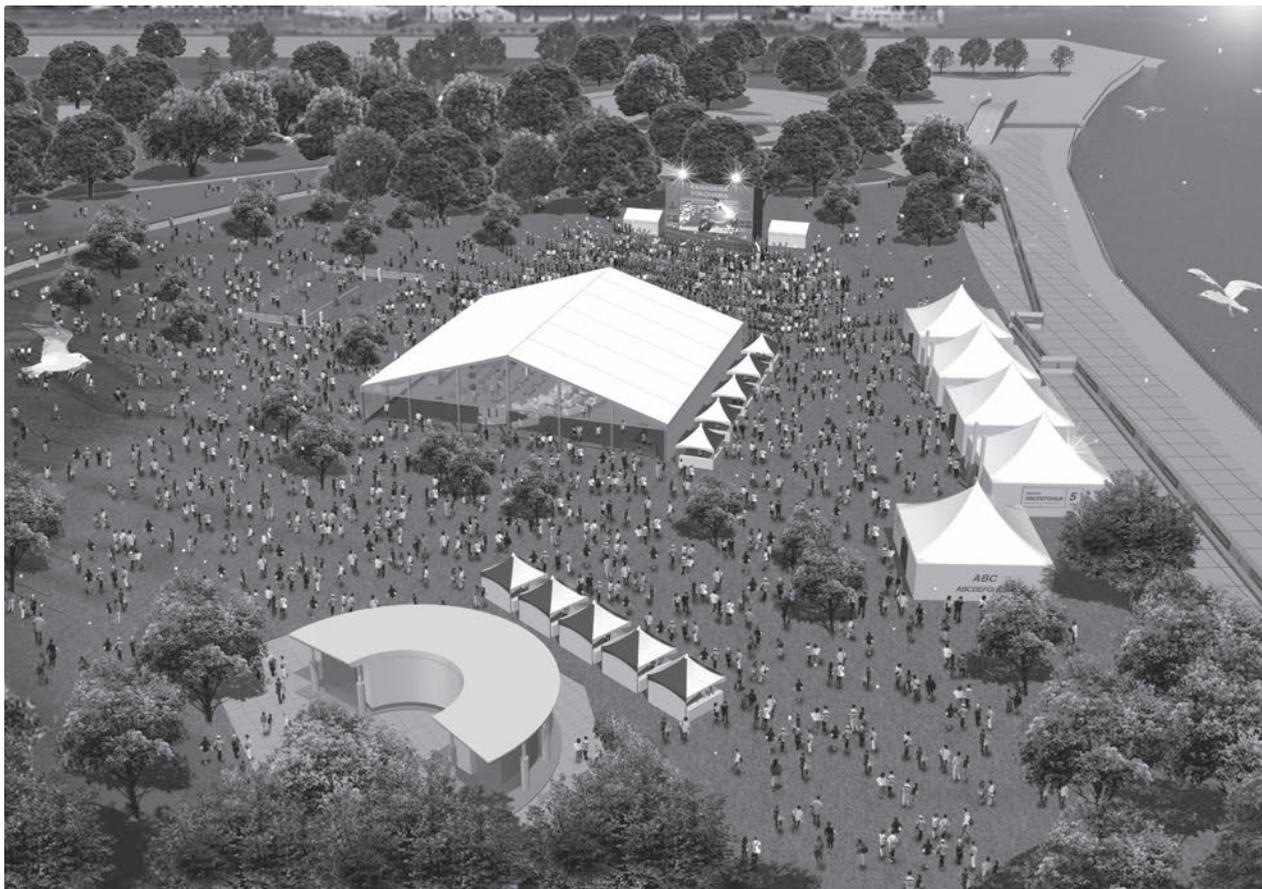
開催期間中のケータリングの総売上金額は1億3,391万円に上った。

ラグビーワールドカップ2019™ ファンゾーン in 神奈川・横浜

- コンセプト：「日本・神奈川・横浜と海外が出会う場所」
- 会場：臨港パーク（横浜市西区みなとみらい1）
- 開催日：9月20日～11月2日の土日、9月20日、11月1日の13日間
(台風の影響で中止の10月12日、13日を除く)
- コンテンツ：パブリックビューイング、ステージイベント、ケータリング、地元PRブース
ラグビーアクティビティ、コマーシャルパートナーブース

ファンゾーン開催日ごとの入場者数

No.	開催日	入場者数	主な試合	No.	開催日	入場者数	主な試合
1	9月20日(金)	8,800人	開幕 日本対ロシア	-	10月13日(日)		台風のため中止
2	9月21日(土)	16,800人	神奈川・横浜開催 ニュージーランド対南アフリカ	8	10月19日(土)	6,900人	準々決勝 イングランド対オーストラリア 準々決勝 ニュージーランド対アイルランド
3	9月22日(日)	13,500人	神奈川・横浜開催 アイルランド対スコットランド	9	10月20日(日)	16,700人	準々決勝 ウェールズ対フランス 準々決勝 日本対南アフリカ
4	9月28日(土)	14,400人	日本対アイルランド	10	10月26日(土)	13,700人	準決勝 神奈川・横浜開催 イングランド対ニュージーランド
5	9月29日(日)	6,800人	オーストラリア対ウェールズ	11	10月27日(日)	11,100人	準決勝 神奈川・横浜開催 ウェールズ対南アフリカ
6	10月5日(土)	16,000人	日本対サモア	12	11月1日(金)	4,800人	3位決定戦 ニュージーランド対ウェールズ
7	10月6日(日)	6,600人	ニュージーランド対ナミビア	13	11月2日(土)	17,600人	決勝 神奈川・横浜開催 イングランド対南アフリカ
-	10月12日(土)		台風のため中止		合計		153,700人



ファンゾーン全景 (計画図)

会場計画

神奈川・横浜を象徴するような海に面した開放的なロケーションである臨港パークにおいて、12開催都市で最大面積（4万㎡超）となるファンゾーンを開催した。

会場の中心には、12開催都市のファンゾーンで最大級となる380インチの大型スクリーンのほか、イベントステージや観客用大型テントを設置し、入退場ゲートや会場を囲むフェンスを含め、大会組織委員会のガイドラインに基づく統一デザインを施し、ラグビーワールドカップ2019の雰囲気を創出した。

そのほか、仮設トイレ、救護所、喫煙スペースなどの設備を需要想定に基づき設置。特に、外国人の通信環境確保のため、臨港パークに常設のWi-Fiに加え、新たに仮設のWi-Fi設備も設置した。

ファンゾーンが始まると、初日から想定以上のお客様が来場し、観戦エリアが手狭になったため、アクティビティエリアを移動させ、開催4日目（9月28日）から大型スクリーンを見られるエリアを拡大した（移動前と移動後は右ページの会場配置図参照）。

このように、臨機応変に対応したことで、より多くの方にパブリックビューイングやステージイベントを楽しんでいただくことができた。

会場運営

〈 警備 〉

ファンゾーンの安全確保のため、試合が行われる競技場と同等レベルの厳格な警備を実施した。

会場を高さ1.8mのフェンスで囲んだほか、会場内外に約60名の警備スタッフを効果的に配置し、入退場ゲートでは手荷物検査と金属探知器によるボディチェックを実施した。

また、神奈川県警察からもファンゾーンに警察官を派遣していただき、警備を含めた運営スタッフと連携して安全確保に協力していただいた。

〈 ボランティア 〉

公式ボランティアを、ファンゾーン内及び最寄り駅（横浜駅・桜木町駅・みなとみらい駅）からファンゾーンへの動線上に配置した。

ファンゾーンにおいては、会場内及び入退場ゲートにおける案内誘導、混雑時における動線確保の補助、フォトスポットなどでの写真撮影によるおもてなし、ラグビーアクティビティの待機列整理、アンセムの歌詞カードの配布などその活動は多岐にわたった。

横浜駅、桜木町駅及びみなとみらい駅には、案内デスクを設置し、ファンゾーンや競技場への行き方を案内するとともに、各駅からファンゾーンへの動線上では、各所にプラカードを持った案内誘導ボランティアを配置し、ファンゾーンや駅へ来場者を誘導した。



桜木町駅前案内

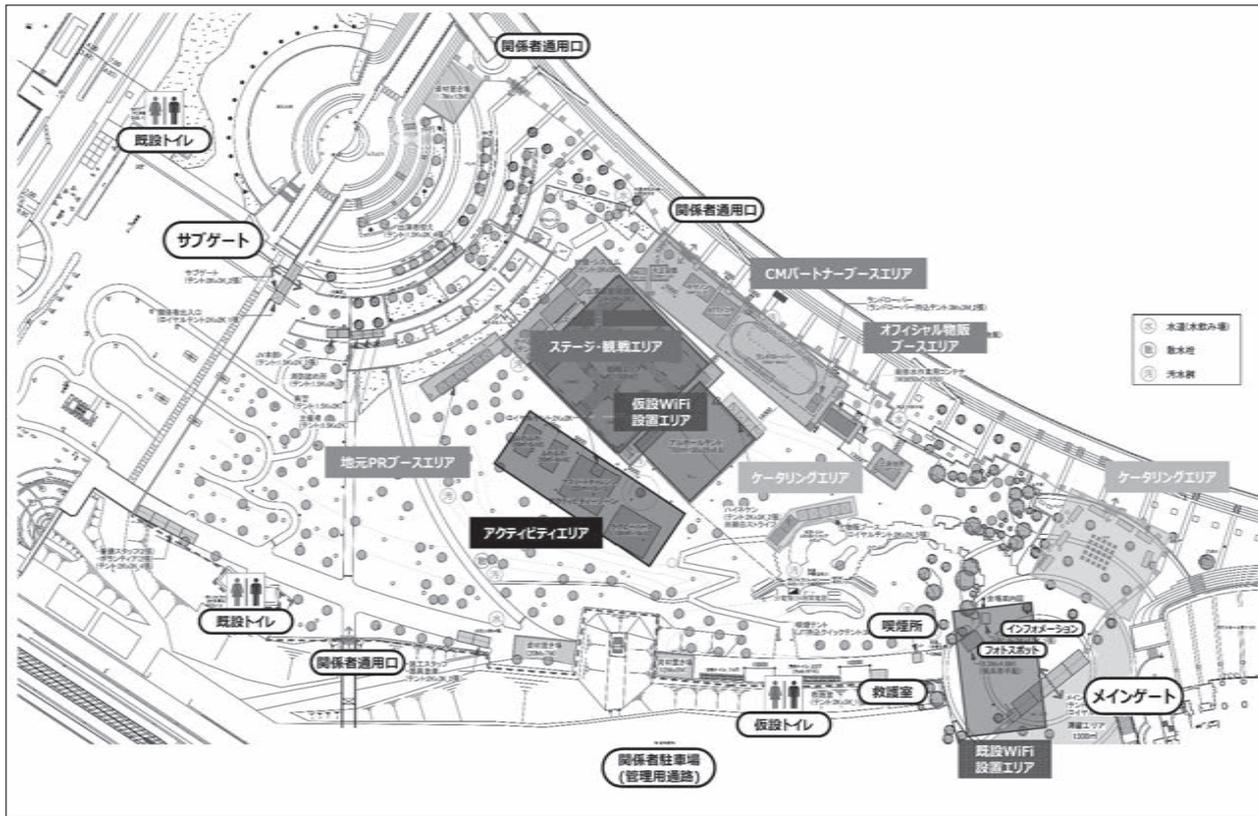


会場待機列の整理

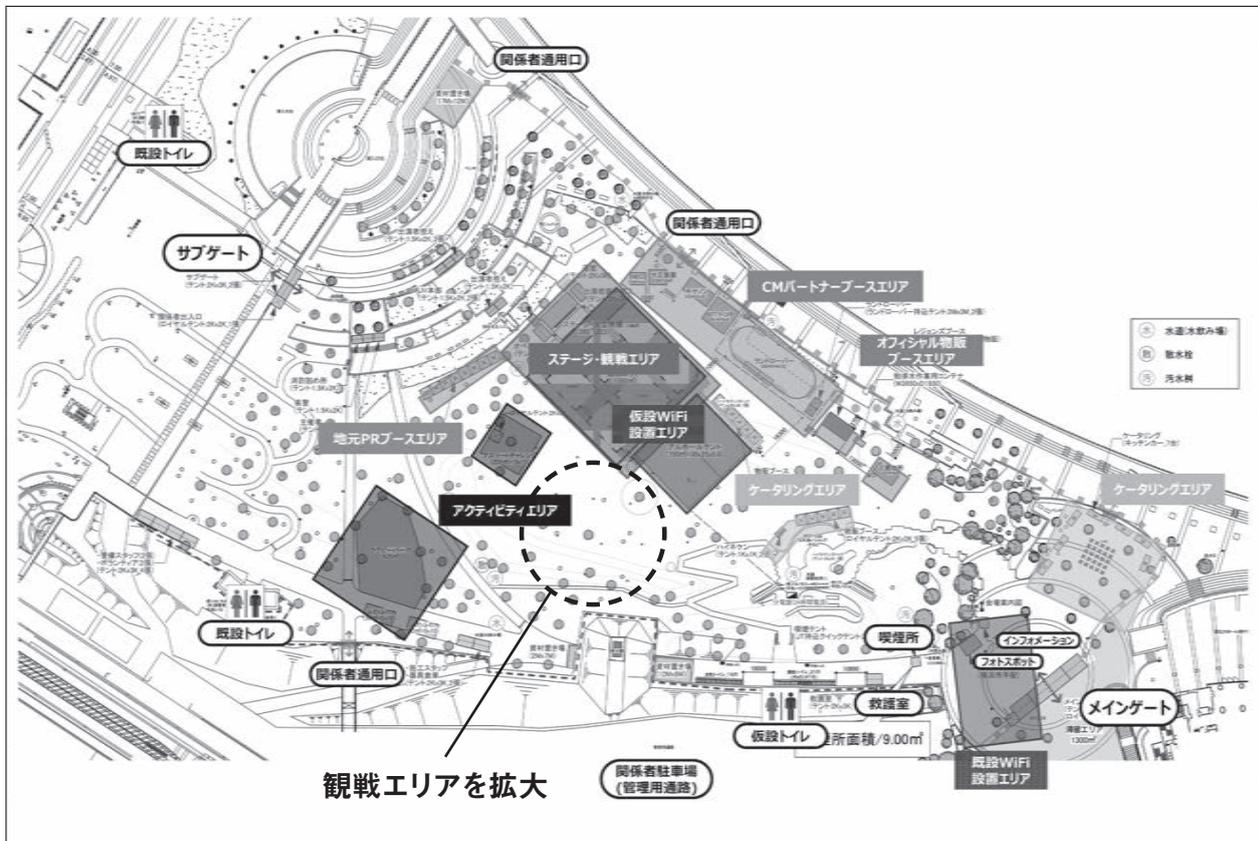


フォトスポットで記念撮影

開催初日（9月20日）から開催3日目（9月22日）までの会場配置図



開催日4日目（9月28日）から最終日（11月2日）までの会場配置図（アクティビティエリア移動後）





フォトフレームを使って記念写真を撮影



閉場時にはハイタッチでお見送り



円陣を組むボランティア



ボランティアと大会公式マスコット「レンジー」で記念撮影

コンテンツ

ファンゾーンのコンセプトである「日本・神奈川・横浜と海外が会う場所」に基づき、海外からの観光客をメインターゲットとし、様々なコンテンツを実施した。

各コンテンツの概要と実施日の状況は次の通り。

〈パブリックビューイング〉

パブリックビューイング用に380インチ（縦4.8m×横8.4m）の大型スクリーンを設置し、開催中は全国各地の大会試合映像を放映した。

ファンゾーン開催日に、各日1～3試合、計25試合を放送した。

試合の解説には、ラグビー元日本代表選手やジャパンラグビートップリーグの選手を招き、盛り上がりにご協力いただいた。



ビール片手に観戦エリアで試合を楽しむ



離れていてもよく見える380インチの大型スクリーン

〈ステージイベント〉

大型スクリーンに併設したステージで、様々なステージイベントを開催した。

その内容は、日本・神奈川・横浜の文化、出場国・地域の文化を体感し、それによってお互いの文化を理解し、交流できるプログラムを用意した。各国の言語を理解できなくても楽しめるステージを意識し、特に和太鼓、神輿、忍者ショー、ハカ、アイルランド音楽、大会公式マスコット「レンジー」と歌舞伎の連獅子共演などは反響が大きかった。

また、ステージイベントや会場内の案内、試合前の解説などを日本語と英語で行い、分かりやすかったと外国人来場者から好評を得た。



迫力の和太鼓パフォーマンス（多数回演奏）



神輿パフォーマンス。日本人も外国人も一緒に神輿を担いで練り歩く（11月2日）



外国人に人気の小田原の忍者ショー（9月28日、10月5日）



ラグビーでもおなじみ、ニュージーランドの伝統芸能「ハカ」（10月19日）



アイルランド音楽（9月22日、9月28日、10月26日）



レンジーと歌舞伎の共演（10月20日、11月2日）

ステージイベント・パブリックビューイングのタイムテーブル

	9月20日	9月21日	9月22日	9月28日	9月29日	10月5日	10月6日	10月12日	10月13日
11:30									1115-1145 TSUZUKI CHEERDAN
12:00									1200-1215 解説 NEC
12:30		1230-1300 NPO法人横浜 都筑太鼓		1230-1300 風魔忍者	1230-1300 ナショナルダンス カンパニーウェールズ	1230-1300 泉郷士芸能保存会	1230-1300 市立戸塚 高校吹奏楽部	1230-1300 内藤希花	1215-1355
13:00									ナミビア 対 カナダ (釜石)
13:30		1330-1345 解説 三菱重工	1320-1350 内藤希花	1330-1345 解説 日野自動車	1315-1345 日体太鼓 パフォーマンズ	1315-1345 風魔忍者	1330-1345 解説 パナソニック	1330-1345 解説 TKM	
14:00			1400-1415 解説 TKM		1400-1415 解説 サントリー	1400-1415 解説 サントリー		1345-1525	1400-1425 横浜百姫隊
14:30	1345-1534 オーストラリア 対 フィジー (札幌)		1415-1614	1345-1536 アルゼンチン 対 トンガ (花園)			1345-1547 ニューゼaland 対 ナミビア (東京)	ニューゼaland 対 イタリア (豊田)	1430-1445 解説 日野自動車
15:00			イタリヤ 対 ナミビア (花園)		1415-1617 ジョージア 対 ウルグアイ (熊谷)	1415-1610 オーストラリア 対 ウルグアイ (大分)			1445-1625
15:30		1535-1555 NPO法人横浜 都筑太鼓		1536-1545 風魔忍者				1530-1600 津軽三味線 勝高会	アメリカ 対 トンガ (花園)
16:00		1600-1615 解説 NEC		1545-1615 解説 伊藤剛臣 内藤希花			1547-1615 市立戸塚 高校吹奏楽部		
16:30			1615-1630 内藤希花		1617-1630 ナショナルダンス カンパニーウェールズ	1610-1640 風魔忍者		1620-1650 金澤翔子	1630-1655 横浜百姫隊
17:00		1615-1805	1630-1645 解説 パナソニック	1615-1821	1630-1645 解説 サントリー	1645-1700 解説 NEC	1630-1645 解説 クボタ	1620-1650 金澤翔子	1630-1655 横浜百姫隊
17:30	1715-1730 鏡割り	フランス 対 アルゼンチン (東京)		【日本代表戦】 日本 対 アイルランド (静岡)			1645-1845	1700-1715 解説 三菱重工	1700-1715 解説 三菱重工
18:00			1645-1851		1645-1845 オーストラリア 対 ウェールズ (東京)	1700-1914 イングランド 対 アルゼンチン (東京)	1645-1845 フランス 対 トンガ (熊本)	1715-1855	1715-1855
18:30			【横浜開催】 アイルランド 対 スコットランド	1621-1830 内藤希花				【横浜開催】 イングランド 対 フランス	ウェールズ 対 ウルグアイ (熊本)
19:00	1830-1915 オープニング セレモニー 横浜百姫隊 川合レオ/林敏之 鈴木彩香	1830-1845 解説 リコー	1851-1900 よさこいダンスチーム Funny	1830-1845 解説 クボタ			1845-1920 JAZZ SQUARE-Tea	1900-1925 内藤希花	1900-1915 スコットランド吹奏楽団
19:30	1915-1945 解説 川合レオ/林敏之 鈴木彩香	1845-2035	1900-1915 解説 キヤノン	1845-2039		1914-1930 解説 NTTコム 吉田義人		1930-1945 解説 パナソニック	1915-1945 解説 サントリー 今泉清
20:00		【横浜開催】 ニューゼaland 対 南アフリカ	1915-2116	南アフリカ 対 ナミビア (豊田)					
20:30	1945-2144		イングランド 対 トンガ (札幌)			1930-2135		1945-2125	1945-2125
21:00	【日本代表戦】 日本 対 ロシア (東京)	2035-2120 JAZZ Carillon de Vent		2040-2120 JAZZ Birds of a feather		【日本代表戦】 日本 対 サモア (豊田)		1945-2125 アイルランド 対 サモア (福岡)	【横浜開催】 【日本代表戦】 日本 対 スコットランド
21:30			2116-2150 上大岡7Brothers			2135-2150 JAZZ 国大			
22:00									

台風のため中止

※『対戦カード(会場)』が記載されているものは、大型スクリーンによるパブリックビューイング

	10月19日	10月20日	10月26日	10月27日	11月1日	11月2日
12:00						
12:30	1215-1245 大和南高校 タンストリル部	1230-1300 杉豊太鼓	1230-1300 日本舞踊協会 (集団日本舞踊)	1230-1300 神奈川県太鼓連合 (相模龍王太鼓)		1245-1315 和楽器バンド
13:00	1300-1330 和楽器バンド					
13:30		1340-1410 日本舞踊協会 (歌舞伎)	1330-1410 県警音楽隊	1330-1400 Dolphin stars		1330-1400 神奈川県太鼓連合 (海老名東柏太鼓)
14:00	1400-1430 大倉根夢太鼓 とん鼓					1415-1445 和楽器バンド
14:30	1430-1500 桐蔭学園 和太鼓部		1440-1510 日本舞踊協会 (集団日本舞踊)	1430-1500 鶴見邦楽連盟		
15:00	1500-1545 港北区神楽会 有志連合 + 祭囃子と獅子舞	1500-1530 日本舞踊協会 (歌舞伎)	1520-1550 都筑区郷土 芸能保存連合会	1530-1600 中央林間一輪車 クラブ フルスター		1500-1530 神奈川県太鼓連合 (鼓种)
15:30						
16:00	1545-1615 解説 三菱重工	1545-1615 解説 キヤノン	1555-1625 内藤希花	1600-1625 都筑子アソ	1605-1630 横浜百姫隊	1545-1615 日本舞踊協会 (歌舞伎)
16:30			1630-1700 準決 解説 NEC	1630-1700 神奈川県太鼓連合 (秦野観光和太鼓)	1630-1700 神奈川県太鼓連合 (打鼓音)	1625-1700 みこしコラボレーション
17:00	1615-1810 【準々決勝】 イングランド 対 オーストラリア (大分)	1615-1815 【準々決勝】 ウェールズ 対 フランス (大分)	1700-1910 【横浜開催】 【準決勝】 イングランド 対 ニュージーランド	1725- 県知事ご挨拶 1730-1800 準決 解説 日野/日デレゲスト	1705- スクラムエニゾン 1720-1800 3位決 解説 林敏之/上野水香 村田匠/ 笠原コーポワード	1700-1730 かながな スペシャルイベント 1730-1800 決勝 解説 ハナソニック 松木安太郎/今泉清
17:30						
18:00	1810-1840 nga hau e whe (ハカ)	1815-1840 白A	1910-1920 JAZZ indigo YOKOHAMA	1800-1955 【横浜開催】 【準決勝】 ウェールズ 対 南アフリカ	1800-1952 【3位決定戦】 ニュージーランド 対 ウェールズ (東京)	1800-2015 【横浜開催】 【決勝】 イングランド 対 南アフリカ
18:30						
19:00	1845-1915 解説 リコー	1845-1915 解説 クボタ		1955-2020 JAZZ ベース&ヴォーカル DUO Voice Me Bass T	1952-2020 JAZZ Banana pancake trail	2015-2100 クロージング セレモニー 消防音楽隊 他
19:30						
20:00	1915-2118 【準々決勝】 ニュージーランド 対 アイルランド (東京)	1915-2125 【準々決勝】 日本 対 南アフリカ (東京)				
20:30						
21:00						
21:30	2120-2150 JAZZ 上大岡7Brothers	2125-2150 JAZZ 市大				
22:00						
22:30						

〈 ケータリング 〉

「神奈川・横浜の老舗・名店」「神奈川・横浜の地産地消」「大会出場国の料理」の3テーマに該当する出店者を公募し、物販テントとキッチンカーの2パターンが出店した。

食品衛生法の関係により、調理行為がキッチンカーのみに限定されたこと、会場が広く、出店エリアを分散させる必要があること、出店が長時間にわたるなど課題も多かったが、13日間で計34店舗が出店した。

中でもフィッシュ&チップスを販売した店は連日大人気で長い行列ができ、スコットランドのフィッシュ&チップスチャンピオンの店は、特に人気だった。

また、ラグビーファンはビールを大量に消費することから、大型テント内及び物販エリアにハイネケンバーを設置したほか、他店舗でも生ビールや缶ビールを販売することで、期間中に売切れることはなかった。

各店舗とも回を重ねるごとに工夫を凝らし、これまでに出品した催事イベント中、最高の売り上げを記録した店もあった。

〔 売上総額：1億3,391万円
ビール消費量：14万6,431本（350ml缶換算） 〕



崎陽軒 物販テントでシウマイを販売



ありあけ 物販テントで「ラグビーハーバー」を販売



大人気だったフィッシュ&チップスの提供店



ちゃんこジャパン キッチンカーでちゃんこを提供



ラグビー観戦のお供にはハイネケンのビール



ビールを提供するハイネケンバーはいつも大賑わい

ケータリング出店事業者一覧

	出店名	販売品目
神奈川・横浜の老舗、名店	ありあけ	洋菓子「横濱ハーバー」、日本代表ユニフォームをデザインした特別商品など
	泉平	寿司（のり巻き、いなり）
	梅や	もも肉から揚げ、焼鳥、梅やソーセージ、骨付きもも
	小田原かまぼこ 丸う田代	小田原かまぼこ、さつまあげなど
	勝烈庵・馬車道十番館	かつれつ弁当
	ガトーよこはま	よこはまチーズケーキ、チーズプリン、ミニパウンドケーキ
	崎陽軒	シウマイ弁当、おつまみ、横濱サブレ～金ごま～
	牛鍋 荒井屋	牛すき弁当
	七福 上大岡店	スルメイカの丸焼き、三崎マグロのカルビ焼き
	富貴包子楼	しゅうまい、餃子、チャーハンなど
	ボンバドウル	手作りパン、惣菜など
	もとまちユニオン	惣菜、おつまみ、ペットボトル飲料、ビール（ハイネケン）
	横浜ガストロノミ協議会	地元の野菜や魚、昆布を使ってラグビーボール型に練り上げた「クネル料理」、焼き菓子盛り合わせ
	横浜中華街 発展会協同組合	横濱中華街弁当、中華菓子、袋入り菓子
ラグビーダイナー セブンオウス	駅弁、惣菜	
神奈川・横浜の地産、地消	イタリアンダイニング カリーナ	ナポリタン&ハマポークのローストセット、THE 横浜サバサンド、ハートのポップオーバーサンドウィッチなど
	神奈川のクレープ屋さん	クレープ各種
	高座豚手造りハム	ミックスグリル、フランクフルト、豚ステーキ
	地元鶏のプレミアムとり天	濱地どりのとり天、かながわ鶏のとり天、地鶏のとり天井、鶏カレー、湘南和牛の牛カツ、湘南和牛の牛丼など
	たまや	清川ポークを使った豚バラ串、タコス、豚しゃぶカップサラダ、地酒、ハイボールなど
	大どこんじょうホルモン	横浜農場小松菜カレー、ミーゴレン、ナシゴレン、BBQ チキン、鳥串し、春巻き、揚げバナナ、インドネシアラーメン
	ちゃんこジャパン	ちゃんこ
	ハワイアンフードトラック H&H	ポーク、シュリンプ、アイス
	ビストロトニー	ケバブ、揚げ物類、ラムステーキ、ピタバーガー
	横濱金沢ブリュワリー ラフシオンナナ	フランクフルト、ホットドッグ、卵焼き、弁当など
	横浜市中央卸売市場本場	フィッシュ&チップス、地魚フライ、アヒージョ、サバまん
	横濱ワイナリー（横浜 PR ブース）	ビール（ハイネケン）、ワイン各種、おつまみ
	横浜若蔵	豚丼、串焼き、から揚げ
レストランなんどき牧場	メンチカツ、コロケ、エビフライ、アジフライ、から揚げなど	
大会出場国の料理	コルポデラストレーガ	パニーニ、ボルケタ、チキン
	シーフード・フロム・スコットランド ザ・ベイ フィッシュ&チップス	フィッシュ&チップスなど
	フィッシュアンドチップスマリン	フィッシュ&チップス、シュリンプ&チップス、チキン&チップスなど
	ポテトステーション	フィッシュ&チップス、フィッシュサンド、フィッシュロール、ロングフライ、ジャンボターキー、アイス
ー	ハイネケンバー	ビール

〈 地元PRブース 〉

神奈川・横浜の魅力発信、シティプロモーションを目的に市内・県内から様々な団体がブース出店を行った。忍者体験、手裏剣投げ体験、折り紙体験、県内の蔵元の日本酒が試飲できるコーナーなど、日本文化の体験型、参加型のコーナーは外国人の人気を呼んだ。



観光案内・物産販売（かながわ屋）



地酒試飲（東京国税局）



手裏剣体験（小田原市）



東京2020大会のPRブース

〈 ラグビーアクティビティ 〉

2種類のエア遊具、ラグビーの一連の動きを体験できるアスリートチャレンジ、ラグビーボールと触れあえるラグビーパークを用意し、子どもから大人までラグビーの楽しさを体験いただいた。

アクティビティエリアは、入場者の増加に伴う観戦エリア拡大のために当初設置された場所から一部移動した。特に子どもたちに人気だったラグビーパークは当初の予定よりも広いエリアに移動したため、結果的に多くの体験希望者を受け入れることができ、大好評だった。

なお、アクティビティエリアの設置・運営にあたっては、神奈川県ラグビーフットボール協会にご協力いただいた。

また、パブリックビューイングの解説で招いたジャパンラグビートップリーグの選手にもアクティビティエリアを訪れていただき、来場者と交流していただいた。

◆ラグビーショットガンタッチ

スポーツ番組でおなじみのショットガンタッチがラグビーに！落ちてくるボールをキャッチしてダイビングトライ！



ラグビーショットガンタッチ ボールに向かってダイブ

◆アスリートチャレンジ

5つのプレーにチャレンジして、モニターに表示される計測結果で、事前にラグビーのトップ選手に計測してもらった記録に挑戦！



アスリートチャレンジ ボールを持って、ポールをかわしながら素早く走る



アスリートチャレンジ 最後はトライ！



アスリートチャレンジ 挑戦後は結果を確認

◆VS RUGBY

綱引きのラグビー版！巨大なボールを挟んで背中合わせに綱で繋がれた二人がラグビーボールを持って、お互いの目の前のHポールを目指してトライ！どっちがトライできる！？



VS RUGBY トライを目指して前へ

◆ラグビーパーク

自由に遊べる空間でラグビーボールなどを使って「投げる」、「蹴る」、「トライ」を体験。



ラグビーパーク ボールを投げたり、蹴ったり、ぶつかったり

〈 商業パートナーブース 〉

大会公式スポンサー各社がその魅力をアピールする出展エリアには多くの来場者が足を止めた。

ランドローバーの試乗体験コーナーでは、急傾斜を登って降りるスリルあふれる体験に長い行列ができた。全国のファンゾーンの中で、ランドローバー社の試乗体験ができたのは横浜のファンゾーンのみだった。



ランドローバー試乗体験は大人気だった



リボタンDのサンプルを配布 (大正製薬)



記念撮影とプリントサービスを実施 (キヤノン)



顔認証ゲームや骨幹測定を実施 (NEC)

広報活動等

大会前にはファンゾーンの認知度の低さが懸念され、広報誌や交通広告、ホームページ（横浜ラグビー情報）やSNS、町内会の掲示板や英語版のホームページなどを活用して情報発信に努めた。

ファンゾーン開催初日前日の9月19日には、報道各社を集めたメディアツアーで、ラグビー元日本代表の廣瀬俊朗氏らをゲストに招き、ファンゾーンの魅力についてプレゼンを行った。その様子はテレビやその他媒体で広く紹介された。



メディアツアーでファンゾーンの魅力をPR(9月19日)

開催後もロケーションの良さから連日、国内外から多数のメディアが取材に訪れ、神奈川・横浜が世界に大きく発信された。また、来場者により会場内の様子がSNSで好意的に発信されることも多く、情報が拡散して、多くの人に横浜のファンゾーンの存在を知っていただくことができた。

【主な報道】

- ・NHK「ニュースウォッチ9」「首都圏ネットワーク」
 - ・日本テレビ「バゲット」「news every.」「Going! Sports&News」
 - 「シューイチ」「ZIP!」「スッキリ」
 - ・フジテレビ「めざましテレビ」
 - ・TBS「サンデー・ジャポン」
- など。その他、新聞・雑誌等多数掲載

このほか、ファンゾーンについて、問合せが多数想定されることから、市のコールセンターとは別に、専用のコールセンターを設置した。対応言語は日本語・英語とした。

コールセンターの履行日及び履行時間

	開設期間	受付時間
開催前	9月17日～9月19日	10:00～18:00
開催期間中	9月20日～11月2日	ファンゾーン開催日 10:00～20:00
		ファンゾーン非開催日 10:00～18:00

大会を振り返って

15日間開催で約15万人の来場を目標としていたが、台風の影響で13日間の開催となったにもかかわらず、延べ15万3,700人が来場した。1日の平均来場者数は約12,000人で、12開催都市16ファンゾーンで最多となった。

日本では馴染みの薄かったファンゾーンの準備は未知数の部分もあったが、多くのお客様に来場していただき、会場内では日本人と外国人が記念撮影をしたり、一緒にビールを飲んだり、会話する姿も見受けられ、ラグビーを通して様々な国の人が交流する場を提供する当初の目的を果たすことができた。

屋外での開催には天候の心配から危惧した部分もあり、実際に台風の影響で2日間が開催中止となったものの、神奈川・横浜らしい場所で開催したことで、神奈川・横浜の魅力を広く世界に発信することができ、ファンゾーンは大成功であった。

ファンゾーン
スナップショット





シティドレッシング

概要

街全体で大会を盛り上げると同時に、ラグビーワールドカップ2019に染まった神奈川・横浜の街を世界中にPRするため、競技場周辺やラストマイル上、市庁舎・県庁舎周辺など観戦者をはじめ多くの人の目に触れる場所に、バナーフラッグの掲出などの都市装飾を行った。

また、街全体を華やかに彩る屋外広告物によって大会を盛り上げるため、屋外広告物の大きさや場所の規制について、「広告物活用地区制度」を活用し一部緩和。これにより歩行者用デッキを装飾するフラッグや大会のシンボルとなる大型モニュメントの掲出が可能となった。

〈新横浜・小机・北新横浜駅周辺〉

観戦者の方に駅を降りた瞬間からラグビーワールドカップ2019の華やかな雰囲気の中、会場まで向かっていただき、大会の特別な高揚感を感じていただくおもてなしと誘導を目的として、新横浜駅・小机駅・北新横浜駅からスタジアムへの動線上や競技場周辺を大型懸垂幕や壁面装飾、街灯バナーなどで装飾した。



新横浜駅構内の装飾

新横浜・小机・北新横浜駅周辺のシティドレッシング実施場所





新横浜駅ペDESTリアンデッキ階段装飾



小机駅構内の大型看板



新横浜駅ペDESTリアンデッキ上スイングバナー等装飾



小机駅の階段壁面装飾



新横浜駅交通広場のデジタルサイネージ



市営地下鉄新横浜駅改札の柱装飾



北新横浜駅周辺の地上電源機器装飾



競技場へ続く西ゲート橋のスイングバナー



デザインマンホール

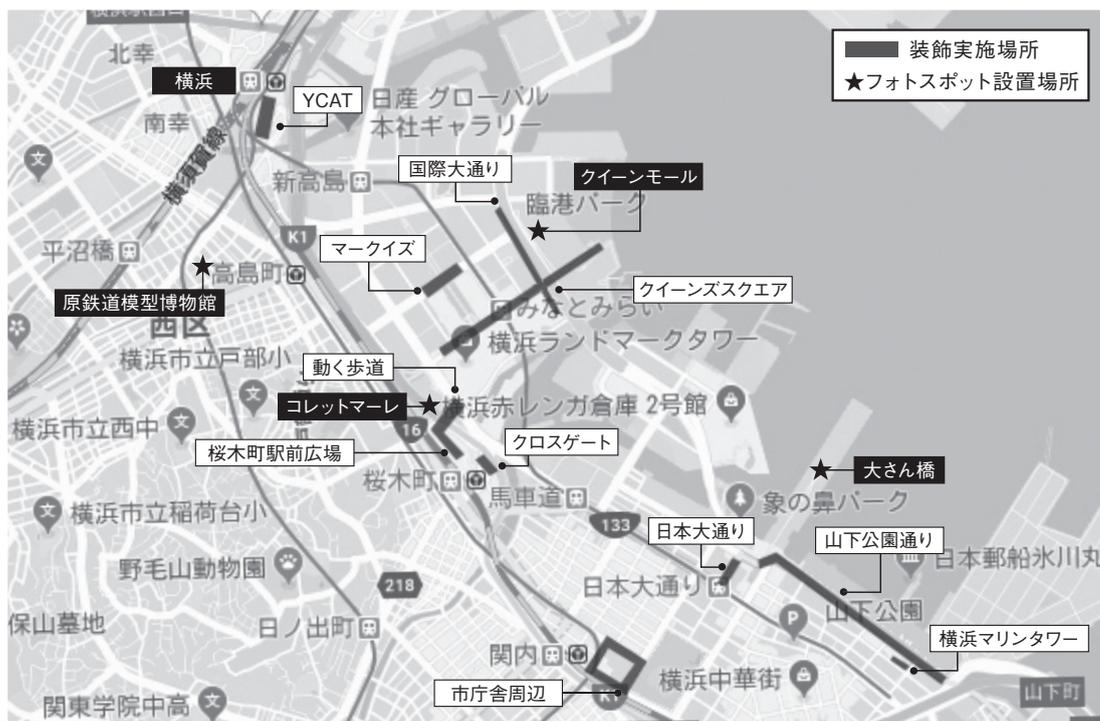
〈 横浜都心臨海部 〉

横浜の街全体での賑わい創出とおもてなし、ファンゾーンへの誘導を目的に、みなとみらい21地区を大型懸垂幕や街灯バナーなどで装飾した。また、横浜の代表的なみなとみらいの街並みがSNSで世界中に拡

散されることによるシティプロモーションを視野に、大型モニュメント『Big Try』を桜木町駅前広場に設置した。

そのほか、横浜駅にある工事仮囲いへの大型装飾や関内・日本大通り周辺にも街灯バナーなどでの装飾を実施し、横浜を訪れる国内外の方に横浜の魅力を発信した。

横浜都心臨海部のシティドレッシング実施場所



◆横浜駅



FOOD&TIMES ISETAN YOKOHAMA



横浜駅中央西口駅前広場整備工事の仮囲い装飾

◆桜木町・みなとみらい



大型モニュメント「Big Try」



クロスゲート
大型懸垂幕



動く歩道階段装飾



動く歩道バナー
フラッグ装飾



クイーンモールのフォトスポット



コレットマールのフォトスポット



ランドマークプラザの懸垂幕
ラグビーボールの装飾は三菱地所(株)による



桜木町駅前のバナーフラッグ

◆ 関内、日本大通り



市庁舎前カウンタダウンボード



(上・下) 県庁舎の装飾や階段装飾



市庁舎の装飾



横浜マリントワー特別ライトアップ



関内の街灯バナー



横浜マリントワー
1階のキャノン
ウォールギャラリー



日本大通りの街灯バナー

大さん橋ホールの
フォトスポット



〈県内各所〉

神奈川県内各所で、街の賑わい創出を目的に様々な装飾を行った。

◆小田原



小田原駅前のキャンノンウォールギャラリー



小田原城とバナー

◆大船



大船駅の大型パネル



オーストラリアのジャージを身にまとった小田原の北条早雲像



小田急線小田原駅

◆海老名



海老名駅のキャンノンウォールギャラリー

試合開催日のイベント

概要

横浜国際総合競技場での試合開催日に、最寄り駅である新横浜駅前、小机駅前で試合観戦に来られた方々に楽しんでいただくため、おもてなしイベントを実施した。

内容

〈横浜ラグビーフェスタ2019〉

試合開始前に新横浜駅北口西広場で、国内外から訪れる観戦客をおもてなしするためのイベントを実施した。

◆開催日時と来場者数

開催日時		来場者数
9月21日	11:00～試合開始	約8,000人
9月22日	11:00～試合開始	約7,500人
10月26日	11:00～試合開始	約20,000人
10月27日	11:00～試合開始	約20,000人
11月2日	11:00～試合開始	約20,000人
5日間の合計		約75,500人

※10月12日、13日は台風のため中止

◆内容

- ・ステージイベント
横浜音祭りと連携したミニライブ、
出場国・地域のアンセムの歌唱
- ・体験ブース
日本文化体験（剣道、書道）
- ・ラグビー縁日
- ・横浜市PRブース
パンフ類配布、重ね押しポストカード作成体験
- ・その他
給水所、手荷物預かり、救護所などを設置



イベント全景



出場国・地域のアンセムを来場者みんなで合唱



ミニライブも行われた



外国人に人気だった剣道体験

〈こづくえマルシェ〉

試合開始前に小机駅周辺特設会場で国内外から訪れる観戦客や区民など、たくさんの方が集まることのできる場としてマルシェ（市場）を開催。地元野菜の物販、キッチンカーでの飲食の提供、フォトスポットなどでお客様をもてなした。

◆開催日時と来場者数

開催日時		来場者数
9月21日	10:00～15:00	約900人
9月22日	10:00～14:00	約800人
10月26日	10:00～14:00	約1,000人
10月27日	10:00～15:00	約1,200人
4日間の合計		約3,900人

※10月12日、13日は台風のため中止

◆内容

地元野菜物販エリア、キッチンカーエリア、フォトスポット



こづくえマルシェのキッチンカー



こづくえマルシェの物販店

〈大会期間中のパブリックビューイング実績〉

大会期間中、競技場以外で、大勢の人と一緒に試合観戦を楽しめる場所として、県内・市内の各地でパブリックビューイングを実施した。

日程	会場	対戦カード	参加者数
9月20日	ブランチ横浜南部市場	日本対ロシア	270人
	栄公会堂		142人
	海老名駅駅間芝生広場		1,200人
9月21日	ハルネ小田原うめまる広場	オーストラリア対フィジー	150人
9月22日	金沢区役所会議室	アイルランド対スコットランド	30人
9月28日	金沢区役所会議室	日本対アイルランド	50人
	藤沢市民会館小ホール		465人
9月29日	ハルネ小田原うめまる広場	オーストラリア対ウェールズ	180人
10月5日	港南地区センター	日本対サモア	90人
	小田急ホテルセンチュリー相模大野		1,000人
10月13日	金沢公会堂	日本対スコットランド	596人
	ラゾーナ川崎プラザ		※台風のため中止
10月19日	ハルネ小田原うめまる広場	オーストラリア対イングランド	180人
10月20日	レンブラントホテル厚木	日本対南アフリカ	400人
11月2日	港北公会堂	イングランド対南アフリカ	350人
	ラゾーナ川崎プラザ		2,100人

ホストシティパフォーマンス

概要

各会場の試合開始前の演出の一つとして行われたのがホストシティパフォーマンス。

試合開始110分前を目処に開催都市に与えられた時間は約20分間で、実施の要否、内容、実施回数は開催都市の判断に委ねられた。

神奈川県・横浜市でも国内外から訪れる観戦客へのおもてなしや、神奈川・横浜の魅力を世界へ発信する絶好の機会として、神奈川県・横浜市を発祥とするバトンとマーチングバンドのパフォーマンスを実施した。



バトンとマーチングバンドが合同パフォーマンスを実施

スケジュール

- 2018年2月 第1回開催都市ヒアリング調査
- 2018年6月 第2回開催都市ヒアリング調査
- 2019年2月 第3回開催都市ヒアリング調査
(神奈川県バトン協会及び神奈川県マーチングバンド連盟による合同演技での実施を回答)
- 2019年4月 実施決定(大会組織委員会承認)
- 2019年9月 リハーサル実施



演技するバトンチーム

実施

当日は、バトン協会から185名、マーチングバンド連盟から347名が参加して、笑顔溢れるダイナミックなパフォーマンスを披露し、観客から温かい拍手が送られた。

競技場内に出演者控室が用意できなかったことから横浜市立小机小学校、神奈川県立新羽高校に控室として体育館や教室をご提供いただいた。



演奏するマーチングバンド

演奏曲目：「We Will Rock You」、「Hands Across the Sea」、「World In Union」

出演団体：〈神奈川県バトン協会〉 鎌倉女学院中高バトン部、神奈川県立川和高等学校バトントワリング部、横浜市立横浜商業高等学校バトントワリング部、北鎌倉女子学園中学校高等学校バトン部、横浜市立金沢高等学校バトントワリング部、茅ヶ崎バトン、team BAT!、洋光台バトン、バトンチームチェリーズ

〈神奈川県マーチングバンド連盟〉 神奈川県立湘南台高校吹奏楽部、関東学院マーチングバンド、鎌倉女子大学中等・高等部マーチングバンド、横浜市立小机小学校マーチングバンド、横浜市立菊名小学校マーチングバンド、横浜市立太尾小学校マーチングバンド、神奈川県警察音楽隊

街の賑わいと観光振興

概要

神奈川県・横浜市では、それぞれラグビーワールドカップ2019の開催にあわせ、国内外から訪れる観戦客に神奈川・横浜の文化や魅力を知っていただくための様々な取組を行った。

横浜市の取組

〈海外における認知度向上の取組〉

海外における認知度向上に向けた戦略的シティプロモーションと、ターゲットに応じた誘客プロモーションを実施した。

◆海外テレビの活用

2019年9月21日～11月2日にわたり、ユーロニュース（世界157か国）での特集番組やCM放映を行い、約1,541万人が視聴した。また、英国地上波「ITV4」では10月2日～10月11日にわたり、試合放映内でのCM放映を実施し、約374万人が視聴した。



ユーロニュースの動画

◆航空機内や空港ターミナルなど

2019年10月1日～31日に航空機内ビジョンでのCM配信（ブリティッシュ・エアウェイズ、カンタス航空、ANA）したほか、羽田空港国際線ターミナル内広告掲出（9月3日～11月2日）や山手線車内ビジョン（10月14日～11月3日）、渋谷スクランブル交差点サイネージ（10月14日～11月3日）でのCM配信により、大会期間中の訪日客の動線上でのプロモーションを展開した。



羽田空港国際線ターミナル広告

◆訪日観戦客向けプロモーション

2018年11月～2019年11月にかけて、旅行口コミサイト「トリップアドバイザー®」への横浜特集ページの開設と、ターゲティング広告による市内宿泊促進プロモーションを行った。

また、英語ニュースサイトでの情報発信や体験型観光マップの配布とWEB配信（いずれも2018年9月～2019年11月）、英字新聞ラグビー特集（別刷り）への出稿（2019年9月20日、10月23日）により、市内回遊を促すプロモーションを実施した。

さらに、関東圏の開催都市（埼玉県、熊谷市、東京都、神奈川県、横浜市）が連携し、周遊ルートを提案する冊子やウェブサイトを作成し、英国現地やオンライン上でプロモーションを実施した。



案内デスクでの英字新聞の活用

◆海外メディアや旅行会社向けセールス

2018年5月～2019年11月までに13回にわたり英国等での現地セールスを行った。また、2018年から大会期間中にかけて、旅行会社・メディアの招聘、受入や海外メディア向けプレスツアーを実施したほか、大会期間中は、海外メディア向け観光情報等提供デスクの設置（横浜国際総合競技場内及び大会組織委員会併設）、観光プロモーション用素材映像の海外メディアへの提供を行った。



英国での現地セールスの様子

〈昼も夜も滞在を楽しめる魅力づくり〉

観戦を目的に訪れた旅行者が、昼も夜も滞在を楽しめるよう、文化・観光施設における取組やイベントなどを実施した。

◆横浜美術館での取組

大会開幕にあわせ、企画展開催中の金曜・土曜に開館時間を20時まで延長した。また、2019年9月20日から休館日を除く毎日、21時までライトアップを実施。
【企画展日程】 2019年9月21日～2020年1月13日
【開館時間】 10時～18時（金曜・土曜は～20時まで）
【ライトアップ】 休館日を除く毎日、21時まで



横浜美術館のライトアップ

◆「三溪園和音まつり2019」の開催

国指定名勝庭園・三溪園では、9月20日～11月1日のうち17日間、開園時間を通常の17時までから19時まで延長し、和楽器などの演奏会を開催した。また、日没からは三溪園を代表する「旧燈明寺三重塔」や庭園のライトアップを行い、日本庭園を幻想的な灯りで彩った。

【日程】

2019年9月20日～11月1日のうち17日間

【ライトアップ】 日没後～19時

【夜間来園者数】 約1,600人



重要文化財建造物での和楽器などの演奏

◆横浜能楽堂での取組

大会取材に訪れた海外メディア向けツアーとして、2019年10月30日に能舞台見学と仕舞鑑賞を行い、日本の伝統芸能に触れていただく取組を実施した。



横浜能楽堂での海外メディア向けツアー
仕舞「羽衣」（観世流）梅若 紀彰

◆NIGHT SYNC YOKOHAMA

(創造的イルミネーション)

観戦に国内外から訪れた多くの方に横浜の夜を楽しんでいただくため、美しいイルミネーションと先端技術を活用した都市的スケールの光をシンクロさせる「NIGHT SYNC YOKOHAMA(ナイトシンクヨコハマ)」を実施した。

新港中央広場でのメディアアートや広場と周辺の施設が連携した光と音楽の演出を実施したほか、11月2日、10日に特設ステージで、横浜能楽堂との連携企画として仕舞を披露した。

【開催期間】 2019年11月1日*～12月27日
18時～21時10分

*台風の影響により10月23日より変更

【場所】 新港中央広場を中心とした新港地区



NIGHT SYNC YOKOHAMA



NIGHT SYNC YOKOHAMA×横浜能楽堂

◆文化芸術イベント

「コンパスヨコハマ2019」

ラグビーワールドカップ2019、横浜美術館の企画展の開催に合わせ、横浜美術館前で、夕暮れから夜の時間を中心に、文化芸術イベントを開催

【開催期間】 2019年9月20日～9月29日 ※台風の影響により9月23日は中止

【会場】 横浜美術館前 美術の広場(グランモール公園)
【来場者数】 約26,000人

〈民間事業者などの取組〉

大会期間中に、行政だけでなく民間事業者においても市内消費拡大に向けた様々な取組が行われた。

◆野毛長卓UTAGEプロジェクト

野毛の路地に並べた机で飲食を楽しむイベントが開催された。野毛ならではの日本料理であるくじら、うなぎ、フグなどを提供した。

【主催】 野毛UTAGEプロジェクト実行委員会

【開催日】 2019年9月22日、10月27日

【会場】 野毛仲通り、中央通り

【来場者数】 約2,400人



お酒を飲みながらの国際交流

◆横浜中華街「夜市」

横浜中華街では「夜市」が開催された。市場通りをメイン会場として、ダンスショーやライブパフォーマンスも用意して来場者をおもてなし。一部店舗では通常よりも営業時間を延長した。

【主催】 横浜中華街発展会協同組合

【開催日】 2019年9月21日、22日、10月26日、27日、11月2日 19時～23時

【会場】 横浜中華街、市場通り周辺

【来場者数】 約11,700人

◆吉田町『スランジバー！

(Slainte mhor!) ラグビー スコットランド

BarやPubが立ち並ぶ吉田町の一角にテーブルが設置され、スコットランド伝統のバグパイプやハイランドダンスを楽しみながらスコットランドのウィスキーやジンを楽しむイベントが開催された。

【主催】 吉田町名店街会

【開催日時】 2019年10月13日 15時～22時

【会場】 吉田町野良猫通り

【来場者数】 約1,000人

◆MOTOMACHI MEETS RUGBY

～元町ラグビー応援月間2019～

元町ショッピングストリートでは、ラグビーが身近に感じられる参加型のイベントや、ラグビーワールドカップ2019参加国・地域にちなんだ国際色豊かな様々なイベントを開催した。

【主催】 協同組合元町SS会

【開催期間】 2019年9月7日～10月31日

※元町ラグビー応援月間

【会場】 元町ショッピングストリート

【来場者数】 約10,000人※10月20日のみの人数

◆横浜橋、伊勢佐木町「御神輿イベント」

外国人も参加できる御神輿体験イベントが開催された。合わせてニュージーランド物産展も開かれた。

【主催】 横浜橋通商店街、協同組合伊勢佐木町商店街

【開催日】 2019年10月27日

【会場】 大通り公園、横浜橋商店街、伊勢佐木町商店街

【来場者数】 約8,000人

◆関内「ラグビー観戦イベント」

決勝のパブリックビューイングが開催された。試合時間前には、ラグビー講座やファミリー向けイベントも開催された。

【主催】 関内まちづくり振興会

【開催日】 2019年11月2日

【会場】 関内メディアビジネスセンター内

【来場者数】 約1,000人

◆石川町「石川町音楽祭 GET DOWN」

恒例の「石川町音楽祭 GET DOWN」において、ラグビーファンブースが特別展開され、子供向けラグビーゲームや、アメリカチーム応援のためのアメリカンフードやドリンクの販売、ソウルバンドやアーティストによる演奏などが行われた。

【主催】 石川町音楽祭実行委員会

【開催日】 2019年9月29日

【会場】 ひらがな商店街

【来場者数】 約1,000人

◆一商店街一國運動

市内18商店街で、ラグビーワールドカップ2019の機運を高めるため、大会の参加国又は地域から、商店街が独自に国を決めて応援する「一商店街一國運動」が行われた。一商店街一國運動では、国の特産品の販売、飲食メニューの提供、文化紹介イベントの開催等に取り組んだ。

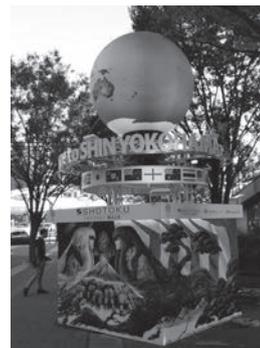


応援国の特産品をPR (中山商店街協同組合)

◆新横浜ウェルカムモニュメント

ラグビーワールドカップ2019の観戦で新横浜を訪れた人の思い出になるようにと新横浜町内会が新横浜駅前東広場に「新横浜ウェルカムモニュメント」を設置し、9月15日夜にお披露目式が行われた。

モニュメントは、11月2日(決勝)まで展示された。



ウェルカムモニュメント

◆「岡部文明2019展」

～ラグビー精神で愛と平和の象徴を描く～ 開催

2019年9月3日～11月3日に横浜赤レンガ倉庫1号館で、ラグビーの練習中に頸椎脱臼骨折を負いながらも、サーカスで出会ったピエロを描き続けている岡部文明氏による「岡部文明2019展～ラグビー精神で愛と平和の象徴を描く～」が開催された。



画家 岡部文明氏

神奈川県の取組

〈個人向け、法人向けの継続したPR〉

◆神奈川県観光レップの設置

(英国・オーストラリア)

大会を契機に神奈川県魅力をPRするため、ロンドン及びシドニーにおいて、現地情報収集や観光プロモーションを実施するため、観光レップ(Representativeの略)を設置した。

【実施期間】 2018年6月～

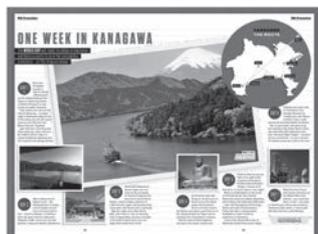
◆メディアでのPR

(1) メディアへの広告記事掲出

【掲出媒体】

・「Rugby World」、「Rugby World NZ」などのラグビー専門誌や英国旅行雑誌など様々な媒体に県内の観光情報を継続的に掲載

【掲載時期】 2018年2月～2019年9月



(2) 京急・JALと連携したラッピング列車運行及びJAL機内誌「SKYWARD」への観光情報掲載

京浜急行電鉄株式会社及び日本航空株式会社と連携し、「行こう！秋の三浦半島」と題し、三浦半島の魅力を詰め込んだラッピング列車を運行するとともにJAL機内誌「SKYWARD」10月号で、三浦半島のPRを実施した。

・ラッピング列車の運行

【運行期間】 2019年9月29日～11月3日

【運行路線】 京急線全線(大師線は除く)

※都営浅草線・京成線・北総線へも乗り入れ



・JAL機内誌「SKYWARD」への観光情報掲載

【掲載時期】 2019年10月(3ページ分)



◆旅行会社向けPR

ラグビーワールドカップ2019™大会公式旅行代理店(Official Travel Agent)の招請(横浜、鎌倉、箱根を周遊)

下記の2社を招請し、観戦券付旅行商品の造成を促した。

【招請者】 英国OTA: England rugby travel社

豪州OTA: Gulliver sport travel社

【実施時期】 2018年1月



〈 個人向けPR 〉

◆東京都内主要駅からの誘客

(神奈川観光ボランティアガイドの配置)

大会期間中、東京都内主要駅などに、神奈川県観光ボランティアガイドを配置し、外国人観戦客を対象に県内観光地の案内を行うことで、県内への誘客を行った。

【実施場所】 都内主要駅など

【実施期間】 2019年9月20日～11月2日

【延べ案内数】 3,347組



◆神奈川・横浜ファンゾーン等での

かながわ屋及び観光ブースの出展など

神奈川・横浜ファンゾーンにおいて、アンテナショップ「かながわ屋」を出展し、県産品の展示販売を行うとともに、観光ブースを出展し神奈川県内の観光地をPRした。また、横浜市及び(公財)横浜観光コンベンション・ビューローと連携し、東京のファンゾーン及びベニューメディアセンターにおいて観客や世界のメディアに対し、PRを行った。

【実施場所】 臨港パーク、東京スポーツスクエア、横浜国際総合競技場

【実施期間】 2019年9月20日～11月2日



◆鉄道事業者と連携した周遊企画を実施

小田急電鉄株式会社、京浜急行電鉄株式会社及び東急電鉄株式会社と連携し、神奈川県や東京都に来訪する観戦客をメインターゲットに、周遊を促進する謎解きスタンプラリーを実施した。

【実施場所】 横浜、小田原・箱根、三浦

【実施期間】 2019年9月19日～2020年1月19日



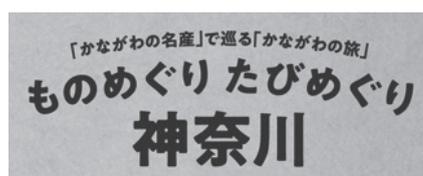
◆東京会場の起点駅での

周遊観光プロモーションイベントの実施

東京会場へ向かう起点駅となる新宿駅で、試合の開催日を含む期間、県の歴史や産業に関わる魅力ある観光資源や、「かながわの名産100選」を中心とした県産品を紹介し、神奈川県における周遊観光の魅力をPRするイベントを実施した。

【実施場所】 新宿駅西口広場イベントコーナー

【実施期間】 2019年10月5日～10月8日



◆関東開催自治体との連携した地方連携事業

【連携先】埼玉県、熊谷市、東京都、横浜市、関東運輸局

【事業内容】関東開催都市周辺の観光パンフレットの制作及び英国観光展への出展などを実施した。



◆チケットホルダー向けWEBページ等の制作

ラグビー強豪国である欧州・豪州をターゲットとした観光PR映像を制作するとともに、ラグビーワールドカップ2019™大会のチケットホルダーを対象とした特設ページを、神奈川県公式観光情報サイト- Tokyo Day Trip -Kanagawa Travel Info- 内に制作し、PRを実施した。

〈文化・観光施設における取組〉

◆神奈川伝統・映像アートウォーク2019

神奈川県庁本庁舎を丸ごと利用し、神奈川県にゆかりのある地域の伝統芸能から、メディアアートなどの現代芸術まで様々な文化を一度に体験できる屋内イベントを実施した。

【日時】2019年10月26日～10月27日

【会場】神奈川県庁本庁舎

【来場者数】約2,500人



寄木細工の展示

◆日本大通り流鏝馬騎射式

神奈川県庁本庁舎前の日本大通りにおいて初めて特設馬上を設置し、弓場練達の射手による勇壮な流鏝馬を披露した。

【日時】2019年10月27日

10時～11時30分／14時～15時30分

【会場】日本大通り（神奈川県庁本庁舎前）

【来場者数】約4,000人



日本大通りを駆け抜ける流鏝馬

◆浮世絵カフェ

ラグビーワールドカップ2019™に向けナイトタイムエコノミーを活性化させるため、ノンバーバル・エンターテインメントレストラン「浮世絵カフェ」を開設した。ファンゾーンのステージイベントにも出演した。

【日時】2019年8月8日～

【会場】神奈川県民ホール6F 英一番館内



「浮世絵カフェ」におけるショー

◆浮世絵アートウィーク2019

神奈川県庁本庁舎敷地内において、神奈川県ゆかりの浮世絵を歩道上に設置したスクリーンに投影したほか、日本大通り全体を提灯や行燈などで彩った。

【日時】2019年10月26日～11月3日

【会場】神奈川県庁本庁舎、日本大通り

【来場者数】約13,000人



浮世絵アートウィーク2019

「花と緑にあふれる環境先進都市」の取組

概要

新横浜駅から競技場までのエリアを、大会開幕にあわせて「花と緑にあふれる環境先進都市」横浜として花と緑で彩り、華やかさや賑わいを演出した。市環境創造局が中心となり、地域など多様な主体と連携し、国内外からの来街者へのおもてなしにつなげた。

〈花と緑による彩り〉

コンテナ花壇（参加20チームイメージ20基、花植え21基、ハンギング付き15基）、レンガ花壇（新設8基、既存8基）、フラワータワー（8基）、ハンギングバスケット（108基）など、様々な彩りの花や緑を、新横浜町内会など地域の協力も得ながら設置した。

また、立体的に装飾することで、華やかさや賑わいを演出した。

チームイメージの花壇については、大陸別に花の種類を変え、ラグビーワールドカップ2019専用の国旗を付け、さらに同じ花が横並びにならないよう配置にもこだわりながら、おもてなしを意識して設置した。

また、競技場入口や周辺など、試合の観戦に訪れた方が最後に目にする箇所まで花の装飾を施し、華やかな雰囲気を演出した。



競技場入口



西ゲート橋

(上から) コンテナ花壇、レンガ花壇、フラワータワー、ハンギングバスケット

〈 地域が主体の緑化 〉

横浜みどりアップ計画の「地域緑のまちづくり事業」*を活用し、新横浜町内会が主体となって、主にFマリノス通りなどを緑化した。壁面緑化の高い視認性を生かし、賑わい演出の起点とした。

また、コンテナ花壇を民有地に設置し、街全体が緑豊かな雰囲気となるよう演出した。

壁面緑化



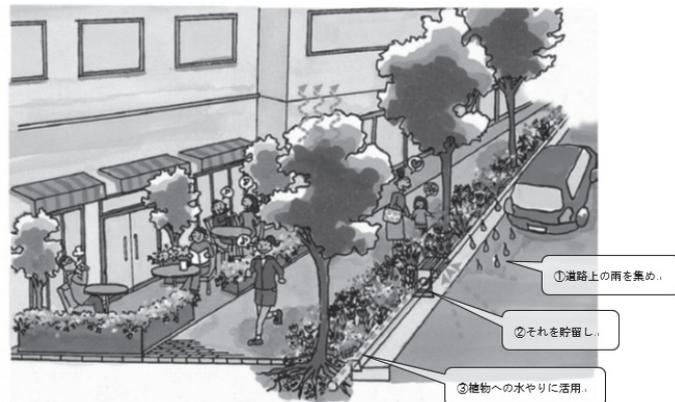
民有地緑化

※地域緑のまちづくり事業

市民の皆様が主体となって、住宅地や商店街、オフィス街、工場地帯など様々な街で、地域にふさわしい緑を創出する計画をつくり、計画を実現していくための取組を、市との協働で進めていく事業。

〈 レインガーデン 〉

雨水を保水し、植物の生育を助ける「グリーンインフラ」の事例として、一部の花壇で、歩道や車道の雨水を花壇に引き込み、一時的に貯留し、時間をかけて浸透させる花壇（レインガーデン）を、3タイプ合計25箇所、競技場までの動線に設置した。



レインガーデン イメージ図

〈 下水再生水の活用 〉

花と緑への水やりに港北水再生センターの下水再生水を活用し、水循環の形成に寄与した。また、下水再生水を活用していることが分かるよう、散水用の車にマグネットシートを貼りPRした。



散水の様子



マグネットシート (20cm×70cm)

〈 花と緑の維持管理 〉

魅力ある空間を演出するため、エリア内の花壇や植栽帯の花や緑、街路樹などは、質の高い維持管理を行うとともに、大会終了後も継続して、長期的な視点をもって一体的に管理している。



レインガーデン取込口
(上) 歩道側 (下) 車道側

〈 暑さへの対応 〉

近年の猛暑の状況等をふまえ、競技場までの動線の、ケヤキなどの街路樹を適切に管理し、緑陰の形成を進めた。

また、新横浜駅前公園では、国土交通省の実証実験と連携し、緑陰とミストによる暑熱緩和アーチなどを設置した。

競技場では、パナソニック(株)と連携したミスト式冷却機を設置するほか、競技場入口の地面の遮熱性舗装により、照り返しによる暑さを軽減した。

※横浜市とパナソニック株式会社は、2019年6月14日に暑さ対策に関する連携協定を締結している。



(左上から時計回りに) 街路樹で木陰づくり、暑熱緩和アーチ、遮熱性舗装、ミスト式冷却機

〈 デザインマンホール 〉

競技場までの動線の、歩道上の下水道マンホール30か所を、大会公式マスコット「レンジー」デザインのマンホールに交換した。デザインの向きを1枚1枚競技場に向けて設置することで、競技場に足を運ぶまでの高揚感とおもてなしを演出した。

また、2019年8月29日には開催都市特別サポーターの吉田義人氏を招いて設置セレモニーを実施した。



デザインマンホール



イベント時の様子

〈 風力発電で大会実施 〉

2050年までの脱炭素化の実現を掲げる横浜市として、決勝で使用された電力の一部を、グリーン電力証書制度*の仕組みを活用し、横浜市風力発電所ハマウイングのクリーンな電力で賄った。



ハマウイング



グリーン電力証書

※グリーン電力証書制度

風力や太陽光などの自然エネルギーで作ったクリーンな電気が持つ「環境価値」を「証書」化して取引する仕組み。証書を使用することで、特定の期間・場所で使用する電力を、自然エネルギーによる電気を使用したとみなすことができる。

取組内容の発信

エリア内で展開した様々な取組は、一体的なパッケージとして、英訳付きの案内板を6か所設置し、国内外からの来街者に向けて発信した。



花壇内に設置した案内板

滞在環境の向上

概要

ラグビーワールドカップ2019の観戦客に快適な滞在環境を提供し、神奈川県・横浜での滞を楽しんでいただくため、公衆無線LAN (Wi-Fi) の整備や臨時シャトルバスの運行などに取り組んだ。

内容

〈 広告付案内サイン・公衆無線LAN (Wi-Fi) 整備 〉

ラグビーワールドカップ2019及び東京2020オリンピック・パラリンピックの開催に伴い、外国人観光客をはじめ国内外から訪れる多くの来街者が目的地までスムーズに移動できるよう、「広告付案内サイン・公衆無線LAN整備事業」を公民連携事業により実施した。

新横浜駅周辺や横浜都心臨海部の既存の案内サインを本事業の案内サインに更新することにより、デザインを統一し、来街者に分かりやすい案内サインとした。

特に、駅前広場、主要な交差点周辺、観光地点へ重点的に設置し、そのうちWi-Fiは、駅前広場や観光地点を中心に、歩行者の回遊性が向上するように案内サインに内蔵した。

〈 臨時シャトルバス運行 〉

横浜国際総合競技場のある新横浜エリアや、ファンゾーンを開催した臨海部エリアを起点とし、中華街と野毛を降車地とした都心臨海部への片道シャトルバスを運行。

【運行期間】 2019年9月20日～11月2日

【運行数】 合計100便

【乗車人数】 合計2,913人 (定員4,545人)



臨時シャトルバス



地図面



広告面

〈 英語観光マップ配布 〉

鎌倉市等の近隣8市と連携して作成した英語観光マップ「Day trip from Yokohama」を羽田空港国際線ターミナル等で配布した。

【作成部数】 2万部



英語の観光マップ

〈 景観の向上に向けて 〉

新横浜駅と競技場の間にある新横浜駅前公園では、港北土木事務所が、大会期間に合わせて植栽の管理を行い、景観の向上を図った。

また、国土交通省による鳥山川の除草作業を行った。



新横浜駅前公園の植栽管理

〈 新横浜駅周辺環境整備（緑化ポール） 〉

横浜市と新横浜町内会が連携し、新横浜駅から競技場までの歩行者動線をライトアップする環境にやさしい「緑化ポール」を整備した。これにより、観戦客の安全を確保し、秩序維持を図るとともに、公共空間の魅力を向上させた。



歩行者動線に設置した緑化ポール

〈 喫煙ルールの周知・啓発 〉

歩きタバコや路上喫煙、たばこの吸い殻などのポイ捨てを防止し、国内外から訪れる多くの来街者を気持ちよくお迎えするために、喫煙ルールの周知・啓発に取り組んだ。

試合開催日は、競技場の最寄り駅周辺に委託の啓発スタッフを配置し、日英表記のプラカードで喫煙ルールの周知を図った。

あわせて、歩きタバコや路上喫煙を発見した場合は、やめてもらうよう説明し、新横浜駅や競技場の喫煙所を利用するよう案内した。



喫煙マナー啓発のスタッフ

〈 放置自転車対策 〉

競技場周辺の放置自転車対策については、市道路局交通安全・自転車政策課が、試合開催前日及び当日に、放置禁止区域の自転車等の撤去作業を行った。

また、駐輪禁止啓発札の貼り付けや立て看板による周知等の事前対策もあわせて実施した。



放置自転車の撤去作業